令和４年度国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議　報告書

国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議規則第２条に基づき、点検を行いましたので、以下のとおり報告します。

１．会議日時・出席者等
・日　時　令和５年１月１２日（木）１２：００～１３：１５
・場　所　本部棟３階　特別会議室　（一部は WEB にて出席）
・出席者　（会場）小川学長、富澤委員、田嶋委員、村田委員、赤木委員、水田委員、福田委員
（WEB）馬場病院長
・欠席者　笠原委員
・陪席者　（会場）阿南熊本県医療政策課長、大和熊本県医療政策課員、渡辺監事、立石監事、山下副病院長（病院事務部長）、香月秘書室係長、中島総務課長、廣田総務課副課長、加賀総務課係長、東総務課員
（WEB）新田理事、向山副病院長、松岡副病院長、山本副病院長、増村病院長特命補佐、山下経理課長、太田黒医事課長、竹本医療サービス課長、田邊経営戦略課長

２．点検の方法
各委員には、事前にスライド資料、病院概要及びアニュアルレポートを送付し、当日は馬場病院長から、新型コロナウイルス感染症への取組状況、病院経営の課題と戦略、地域医療連携体制の強化、医師の働き方改革に向けた取組状況、教育・研究機能強化への取組状況をテーマとして、スライド資料により説明及び報告があり、その後意見交換を行った。

３．意見交換の内容
（◇は委員からの質問・意見、◆は馬場病院長の回答・説明）

◇：　新型コロナウイルス感染症が発生して以来、まもなく３年が過ぎようとしているが、その間、ワクチン接種を進めるとともに、馬場病院長には県の専門家会議の座長として強いリーダーシップを発揮し医療体制の強化に尽力していただき御礼申し上げる。昨年夏以降、まん延防止等重点措置等の強い行動制限を行うことなく、社会経済活動の維持が出来ている。一方で第８波の影響により医療体制に大きな負荷がかかっている状況を危惧している。年末年始には馬場病院長、福田熊本県医師会長、大西市長とともに、緊急メッセージを出させていただいた。また、地域医療を支えるためには熊本大学病院の役割は非常に大きいものである。県としてはこれまでの地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座に加え、感染症対応実践学寄附講座、さらには、看護職の技術向上等を目的としたキャリア支援事業等により、人的資源の積み上げに取り組んでいきたいと考えている。熊本大学病院は、熊本県の中核をなす拠点病院としての役割を果たしていただくことを期待している。
さらに、半導体の拠点整備という国家戦略の中で TSMC の誘致が進められている。様々な課題を解消していくことが求められるが、特に人材育成・人材確保、医療の問題については熊本大学病院の支援が必要であるため、引き続きご協力をお願いし

たい。

◆：　ご指摘いただいた3点について、現状を踏まえてお答えさせていただく。まず、1点目の新型コロナウイルス感染症の第8波については、報道では死亡者が増加しているとも言われているが、データを見ると死亡率はそこまで増加していない。第7波と比較すると高齢者の罹患率が高く、その分が死亡者として反映されていると認識している。出来るだけ医療が破綻しないように大学病院としても最善を尽くして参りたい。

2点目の人材派遣について、熊本県からは多くの寄附金をいただいており感謝申し上げたい。県内の地域医療拠点病院へこれからも継続して派遣出来る体制を維持していきたいと考える。地域医療を守っていくことが大学病院の役目であると認識しており、感染症を専門とする人材育成にも取り組んでいきたいと考える。

3点目のTSMC誘致について、大学病院としても職員等に対して多言語で対応出来る体制、迅速な医療を実施できるような体制の整備を進めている。今後も行政の方々と連携しながら体制を構築していきたいと考えている。

◇：　県内の複数の病院で治療を受けるうちに、2度とこの病院にはかからないといった思いを本にまとめられた方がいる。その本の中で医療従事者の些細な言葉で患者さんの受け取り方が大きく異なったとの場面があった。医療技術とは別に医療従事者としての人の有り様、患者さんに寄り添うような意味での教育、人材育成が重要であると考える。熊本大学病院において何かお考えがあればお伺いしたい。

◆：　いくら治療技術が卓越したとしても医療従事者の心ない言動によって患者さんの気持ちは容易に傷つくものである。患者さんに対して接する態度、表情がどれほど大きな影響を与えるかということを理解することは極めて基本的なことではあるが、卒前教育あるいは卒後教育において今後も重要にしていきたいと考える。患者さんにどのような態度で接し、どのように患者さんの気持ちを楽にさせてあげるかというのが診断あるいは治療をする以前の前提であるということを充分に認識してもらえるような教育を行っていきたいと考える。

◇：　今後、医療従事者の減少や働き方改革に伴い、運営の効率化を図っていく必要があり、医療DXを推進していくことが必要不可欠であると思うが、熊本大学病院の診療の場においてオンライン問診等を既に導入しているか、あるいは計画されているのかご教示いただきたい。

◆：　医療DXに関しては、業務効率化に欠かせない事であると考えている。再診受付を駐車場に来た時点で行い、受診後に病院で会計をせずに帰れるシステムの導入を検討している。また、ＫＭＮを活用し、文書の送受信にかかる医師の負担を軽減する事を推進している。

さらに、先程説明させていただいたが、低侵襲医療/遠隔診療トレーニングセンターを設置しており、新たな人材を配置するとともに、人材育成を図りたいと考えている。オンライン診療等については、熊本県医師会とも連動しながら進めていきたいと考える。

◇：　臨床現場においては、医療機関や行政との連携が重要であるが、患者さんの受け渡しが中々スムーズに行うことが出来ていない状況である。馬場病院長からみてここが問題ではないか。といったお考えがあればご指摘いただきたい。また、ＫＭＮがここまで浸透したのはまさしく熊本大学病院のおかげであるため、これからもご

指導いただきたい。医師の働き方改革に伴い、今後熊本大学病院から医師の派遣がなくなるのではないか、といったことを地域の医療機関では懸念されている。難しい問題ではあるが、宿日直許可申請は、地域によって対応が異なるため、丁寧な対応をしていく必要があると考える。

さらに、熊本大学病院において患者さんに対する接遇の勉強（研修等）はされているのかご教示いただきたい。

◆：　ご指摘のとおり、病院間での人事異動や患者さんの受け渡しが中々スムーズに行うことが出来ていない状況であるため、情報共有しながら協力体制を構築していきたいと考えている。また、市内の比較的大きな病院におけるＫＭＮの使用がまだ充分ではないため、さらなる活用促進に向けて取り組んでいきたいと考えている。

医師の働き方改革は喫緊の課題である。地域医療を支える医師等を派遣できなくならないように、毎月時間外労働時間数のデータを示しながら院内の各診療科へ指導をしている。また、各医療機関が宿日直許可を受けれるように行政と協力しながら進めていきたいと考える。

さらに、患者さんに対する接遇については、医師を目指す医学部生に看護業務を経験してもらい、より患者さんに近い立場で患者さんの気持ちを理解し、優しい言葉かけが出来るようにしていく教育を行っている。

◇：　医師の働き方改革については、本日ご説明いただいたところであるが、看護師の働き方改革に関して、どのような取組を行っているのかご教示いただきたい。また、昨今は若年層の離職・退職が多く、人材の流動性が高まっているが、熊本大学病院において人材戦略はどのように考えているのかご教示いただきたい。

◆：　看護師の業務負担を減らすため、患者輸送センターを設置しているとともに、看護補助者も増やして看護師一人一人にかかる負担を減らすことで人材を確保している。その他の職種についてもタスク・シフト/シェアを推進し、人材確保に取り組んでいる。

また、若年層の人材育成については、他の施設と比較して見劣りしない労働環境、給与向上に取り組んでいるが、まだまだ充分ではないと理解している。熊本大学病院は県内唯一の特定機能病院であり、最後の砦という発言をしたが、これは診療の面だけで無く、教育や研究の面を含めた最後の砦でもあると理解している。熊本県の地域全体に均てん化して医師を派遣できるようにしていくためにも戦略的な人材育成が重要であると考えている。

令和５年１月３０日
国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議
議 長　富澤　一仁